

令和5年度第3回箕面市支援教育充実検討委員会 議事録

日 時：令和6年3月13日（水）午後6時30分から午後8時00分

場 所：オンライン開催

出席者：伊丹委員長、小田委員、野口委員、中西委員、辻野委員、俵積田委員、佐藤委員、脇委員、柳原委員、吉川委員、ゆうやけの会代表者、つばさの会代表者
新居教員（小学校通級担当者）、文教員（中学校通級担当者）

事務局：藤迫教育長、藤村副教育長、藪本小中一貫教育推進監、金城学校教育監、濱口担当副部長、三島学校教育室長、大上保育・幼児教育センター長、
人権施策室：後藤室長補佐、川田室長補佐、赤城室長補佐、田口参事、大坪参事

傍聴者：4名

1. 開会

（伊丹委員長）

定刻となりましたので、令和5年度第3回箕面市支援教育充実検討委員会を開催いたします。本日司会を務めさせていただきます、委員長の伊丹でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、案件1「令和6年度予定している支援教育充実事業について」事務局より説明をお願いいたします。

2. 議事

案件1 令和6年度予定している支援教育充実事業について

（事務局：後藤室長補佐）

○資料に基づいて事務局から説明

（伊丹委員長）

ご説明ありがとうございます。1ページの『学びの場の充実について』、ご意見やご質問はございますでしょうか。

（脇委員）

支援教育支援員の配置について、学びの場を変更した児童生徒数を考慮されるのは、令和6年度に限った対応でしょうか。

（事務局：後藤室長補佐）

予算が関係しますので、令和7年度以降について、言及することは、現時点では、難しいのですが、効果が見られるようであれば、継続して実施していくということも考えていきたいと思っています。

（脇委員）

今後も通常学級に学びの場を移す生徒が増えていくと思いますので、支援教育支援員の人員確保にも注力していただきたいです。

（伊丹委員長）

ありがとうございます。予算が絡みますが、その点は大切だと思います。その他、ご意見やご質問はございますでしょうか。

（柳原委員）

学びの場を移していく児童生徒の増加に従って、支援教育支援員が対応していく形も少しずつ変化していくのではないかと考えています。その場合、支援教育支援員もたくさんいらっしゃいますので、一人ひとりがきちんと変更になった経過を理解した上で、サポートしていくこ

とが大切であると思います。そのため、全体研修や悉皆研修などの支援教育支援員に向けて、事務局から丁寧な説明をしていただきたいと思います。

(伊丹委員長)

ただいまの要望に関しまして、事務局いかがでしょうか。

(事務局：後藤室長補佐)

ありがとうございます。今おっしゃっていただいたとおり、働いていただいている支援教育支援員、一人ひとりの意識はとても大切だと我々も認識しております。また、支援教育支援員の皆さまに説明する全体研修の場や、会計年度任用職員の支援教育支援員が参加する支援員研修などをおして、支援学級に在籍する児童生徒に関するだけでなく、学びの場を変えられた児童生徒に関する話や、配置基準などについてもご説明させていただき、支援教育支援員全員に共有していきたいと考えております。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。個人の柔軟性も必要ですが、意見を統一するために周知徹底することも大事だと思います。よろしくお願いします。

その他、ご意見やご質問はございますでしょうか。

(俵積田委員)

来年度から、通級指導教室の利用者数が多い学校に、複数名の通級指導担当教員を配置する予定とのことですが、13人の児童生徒に対して1人の通級指導教室担当教員を配置していただけののか、26人になれば2人配置になるのかの基準を教えてくださいたいです。25人の児童生徒を1人の教員が見るのはかなり厳しいように感じます。また、支援教育支援員の配置に関する基準に変更があるのであれば、その点についても伺いたいです。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。今の点につきまして、事務局からお願いいたします。

(事務局：後藤室長補佐)

ご意見ありがとうございます。通級指導教室担当教員の配置基準につきましては、通級指導教室担当教員1人につき13人の児童生徒を担当するという国の基準がございますので、その点に考慮しながらの配置をしていくという形です。ただ、学校では先ほどおっしゃっていただいたように24、25人の児童生徒を1人の通級指導教室担当教員が担当している場合もあると認識しております。そのため、その点につきましては、しっかりと配置基準を考慮させていただきながら、通級指導教室担当教員のケアに注力していきたいと考えています。また、支援教育支援員の配置基準についてですが、実際、具体的な人数というのはまだ内示前、異動の確定前ということですので、申し上げるのが難しい部分がありますが、考え方といたしましては、これまで支援学級に在籍されている児童生徒数を基準に、支援教育支援員を配置していましたが、来年度以降につきましては、今年度、学びの場を変更された児童生徒は、支援学級在籍ではありませんが、優先的にケアが必要であると思いますので、その点も鑑みながら配置を行っています。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。柔軟に対応いただきましてありがとうございます。

(俵積田委員)

ありがとうございます。通級指導教室担当教員1人の負担が大きくなりすぎないように、協力いただける支援教育支援員を箕面市の予算で配置していただけるとより支援学級や通級指導教室、通常学級の連携が円滑になると思いますので、その点も考慮していただきたいと思いますという希望です。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。その他、ご意見やご質問はございますでしょうか。

(新居教員)

来年度は通級指導教室担当教員を複数配置していただけるとのこと、すごくありがたく思っています。他市では、複数配置の場合に、2人目の方が他校を巡回指導していると聞いたことがあります。箕面市でも通級指導教室が全校設置される以前は、巡回指導をしたこともあり、所属校の校務分掌に関することや、他校の教職員との連絡など、巡回指導は大変な部分もありましたので、その点につきましては現場の声を聞いて、進めていただけたらと思います。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。事務局からお願いいたします。

(事務局：後藤室長補佐)

ご意見ありがとうございます。今、言っていただきました巡回指導のお話でございますけれども、実際の配置の予定につきましては、当然26人を超えているところにつきましては、複数名の配置というのは国の基準でも決まっているところでございます。しかしながら、先ほど俵積田校長先生の御意見でもありました、1人の教員が多くの児童生徒を担当している学校もございます。そのため、令和6年度につきましては、基本的には自校を見ていただきながら、他校にもお助けいただくという形で、巡回指導を組合せながら、配置することを検討しています。新居教員のおっしゃったように巡回先での引き継ぎや、通常学級の先生との連携の部分、我々もそこは正直、気にしている部分でございます。今まで自校配置がなかった場合は通級の先生がいらっしゃらないので、通常学級の先生を捕まえるのは難しいという現状があったと思いますけれども、今年度、全校配置があるというところがございますので、各校に配置されている通級の先生とも連携していただきながら、巡回指導を加えて、いい形で支援教育、通級指導教室の運営を行っていきたいと考えております。

(伊丹委員長)

ありがとうございました。その他、ご意見やご質問はございますでしょうか。

(中西委員)

通級指導教室担当教員の複数配置についてですが、対象の児童生徒はたくさんいますが、教員不足でしたので、来年度は通級指導教室担当教員になっていただける教員の育成が大切であると実感しました。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。この点について、事務局からご意見はございますか。

(事務局：後藤室長補佐)

ご意見ありがとうございます。今言っていただきました通級指導教室の先生の部分と、全国的な教員不足とが相まっているお話かなと思って聞かせていただきました。通級指導教室担当教員につきましては、通級担当者会を月2回開催し、ミニ学習会や事例の共有なども積極的にしていただき、基礎的な知識などにつきまして、様々な事例などを新しく担当される通級指導教室の担当教員の方々に共有し、底上げを図っていただきました。全国的な教員不足につきましては、我々のほうでバックアップが可能な部分とそうでない部分がありますが、しっかりと教員の確保や配置した教員の研修等は継続して行っていきたいと思っています。

(伊丹委員長)

ありがとうございました。

続きまして、2ページから4ページの『教職員の在り方について』、ご意見やご質問はございますか。

(協委員)

令和6年度の研修について、専門的に学べる内容もあると思いますが、経験年数の多い教員が減り、経験年数の少ない教員が増えているなかで、支援学級に在籍する児童生徒を交えた集団づくりが難しくなっていると実感しています。このような集団づくりと人権教育が大切になると思いますので、この点の内容も重点的に研修に取り入れていただけるといいと思いました。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。この点について、事務局からご意見はございますか。

(事務局：田口参事)

特に経験年数の浅い教員に焦点を当てた場合、通常学級での授業づくりや、支援体制の構築が非常に重要になっていくと思っております。そのため、来年度につきましては、学びのユニバーサルデザイン等の研修を行い、基礎的な知識の底上げを行っていかれたらと思っています。

(協委員)

よろしくお願いします。あと種別に応じた授業づくりについては、我々は支援学校の教員ではないので、様々な障害種別に対応していかないといけないところと、校区によって種別の偏りもあるので、様々な児童生徒がいる中での授業づくりに関する研修も実施していただけると嬉しいです。よろしくお願いします。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。障害の多様性に応じた支援は大事だと思います。この点に関しまして、事務局いかがでしょうか。

(事務局：後藤室長補佐)

ご意見ありがとうございます。おっしゃっていただいたとおり、支援学級に在籍される児童生徒の障害種別の重なりや校区によって障害種別に少し偏りがあるということは認識しています。今回、支援教育専門研修について「障害種別に応じた」と記載した理由についてですが、これまで、支援教育という広い意味の研修を実施してきましたが、個々のニーズに応じた、少し深掘りをさせていただいた研修も展開していきたいという狙いで、設定させていただいています。また、今後も現場の声を聞きながら、研修を設定していきたいなと思っていますので、ご意見がございましたら、事務局にお伝えいただければと思います。

(協委員)

ありがとうございます。

(伊丹委員長)

その他、ご意見やご質問はございますでしょうか。

(中西委員)

専門性を高めることがすごく大事なことだと思っています。そのため、通常学級の支援というところをしっかりと次年度も続けていただいて、全教職員が支援教育についての知識を身につけ、対応できるように、また維持していただきたいと思っています。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。経験の少ない教員にとっては、非常に重要なことだと思います。事務局からご意見はございますでしょうか。

(事務局：後藤室長補佐)

ご意見ありがとうございます。以前は、支援教育に携わってる先生方を中心に展開してたところ、今年度は様々な支援教育研修というのは、通常学級や教科担当の教員にも対象を広げ、研修を実施しました。支援教育方針に基づいて、様々な支援教育の充実施策を令和5年度に実施していきまされたけれども、少しずつ通常学級の教員の意識も変わり始めているという部分を大切にしつつ、箕面市が今まで大切に取組んできた支援教育も見つめ直しながら、通常学級の先生がたが、支援教育について関心を持っていただいているというところを大切に、令和6年度以降も継続して取組んでいきたいと思っています。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。その他、ご意見やご質問はございますでしょうか。

(協委員)

府立支援学校への派遣研修についてですが、支援学校の派遣だけでなく、他市の支援学級の視察や交流等もできればと思います。例えば、豊中市は、テレビでも取り上げられてたりしているので、そのようなところで小学校と小学校、中学校と中学校の支援学級への派遣研修などがあればいいなと思います。よろしくをお願いします。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。この点に関しまして、事務局いかがでしょうか。

(事務局：後藤室長補佐)

ご意見ありがとうございます。今年度は、通級指導教室担当教員と池田市など他市へ視察に伺い、他市で通級指導教室がどのように運営されているのを見に行かせていただきました。協委員がおっしゃられていたように、今後は豊中市や大阪府内の行くことが可能な範囲で、支援学級で良い取組をされている自治体へ事務局も同行させていただきながら視察をさせていただきたいと思っています。そのため、そのような情報があれば積極的にご共有していただければと思います。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。その他、ご意見やご質問はございますでしょうか。

(辻野委員)

学校には本当に多様な児童が増えている状況です。また、経験が浅い教員や支援教育に携わる機会が少ない教員もいます。支援教育コーディネーターには、支援教育コーディネーター養成研修を通して学んでいただきたいです。経験が浅い担任も増えていきますので、研修で知識を深めた支援教育コーディネーターや通級指導教室担当、生活指導担当、保健の養護教員で、「この児童には、こんな特性があるので、このように声をかけるといいですよ」や、「このようなプリントをこの児童に、あるいはクラス全体で取り組むといいですよ」というように学級担任などを学校全体で支えていただける存在になっていただきたいと思っています。そのため、そのような研修も実施していただけるとありがたいです。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。この点に関して、事務局いかがでしょうか。

(事務局：田口参事)

各学校の教職員がすぐに相談できる支援教育コーディネーターの育成が大事だと思っていますので、令和6年度は、例えば、具体的な事例を用いて意見交換をするなど、すぐに活用できる内容を相談し、持ち帰っていただくような研修を開催できればと思っています。また、多くのかたにご協力をいただくことになるかと思っていますので、よろしくお願いたします。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。続きまして、5ページの『その他』につきまして、ご意見やご質問はございますか。野口委員、補足説明をお願いいたします。

(野口委員)

私が所属している一般社団法人 UNIVA は、学校や教育委員会、また企業と連携して、インクルージョンを推進していく活動を行っています。令和6年度、日本財団の助成金をいただくことになり、いくつかの学校や自治体と継続的に連携をさせていただき計画に取り組んでいるところです。箕面市や埼玉県戸田市、東京都狛江市の小中学校を対象に、各市1、2校ずつのモデル校で計画を立てるところから連携させていただきたいと思っています。そのため、具体的に何を行うのかについては、4月に対象校が決まったあとに決めていく予定です。学校によっては、スクールワイドPBSや多層型支援、ユニバーサルデザインの充実など多様な観点があると思いますので、学校の実態に応じて、一緒に計画を立て、オンラインで月に1回コンサルタントを派遣していく予定です。また、年3回ぐらい対面の研修の実施と、戸田市と狛江市も私はずっと関わっていますが、各市それぞれの強みがありますので、それぞれを視察し合うような機会も検討しています。

(伊丹委員長)

ありがとうございました。全国的な展開をしていただけるとのこと、非常に楽しみです。ありがとうございます。続きまして、案件2「学校における実践例について」でございます。事務局より説明をお願いいたします。

案件2 学校における実践例について

(事務局：後藤室長補佐)

資料2を用いて、第一中学校の支援教育コーディネーター、協委員に実践例について、ご説明いただきます。第一中学校で大変すばらしい取組をされていると伺い、ぜひ内容についてご紹介させていただきたいと依頼した経緯がございます。それでは、協委員よろしく願いいたします。

(協委員)

今年度、新たな取組を始めましたので、資料2を用いて発表させていただきます。

今回、支援学級であるプログラムを構築いたしました。1ページの「プログラムの構築に至った経緯」についてですが、今年度、50名を超える生徒が支援学級に在籍しており、その中で不登校傾向や教室に入るためにエネルギーがたくさん必要な生徒が多くいます。また、生徒の抽出時間も、増加してきています。また、支援教育に関する経験年数の少ない教員が増加している中で個々への対応が難しくなっている現状がありました。

次に2ページの「先生方の学びと構築の過程」についてですが、昨年度の課題も踏まえて何かできないかと思っていたこともあり、今年度の1学期より取り組み始め、夏休みに支援学級での1日の過ごし方に関するプログラムを構築しました。このプログラムを組み立てていくなかで、教員としての経験年数の少ない教員や支援教育に関する経験年数の少ない教員が多かったので、中学校を卒業した生徒がどのような進路を進むのか、高等支援学校や一般の府立の高校ではどのような取組されているのかを学ぶために、支援学級担任や通級指導教室担当教員、生徒指導の教員なども同行しながら、大阪府立とりかい高等支援学校や箕面東高校のモジュール授業を見学しに行きました。また、今年度は小中一貫の推進に注力していますので、校区の支援コーディネーターと連携し、中学校の支援学級担任が小学校の授業を見に行き、小学校の教員が中学校の授業を見に来られました。2学期の始業式明けに、生徒に対して「こういう目的でやるよ。こういうルールがあるよ」と説明を行ったうえで、まずは2週間程度取り組みました。その後、2週間取り組んでみてどうだったか生徒に話を聞き、その1日のプログラムに修正を加えた内容で、現在本格的に運用をしています。

では、3ページと4ページの「プログラム（時間割）」をご覧ください。時間割を作成し、例えば、1時間目はコグプリ、2時間目は、支援学級担任が授業を行う、3時間目は体を動かしたり、自分の目標に沿って取り組んだりする時間に充てる、4時間目は通常学級の提出物に取り組む、5時間目は農園活動や社会に出た際に役に立つことを学ぶライフスキルタイム、そして6時間目はコミュニケーションタイムになっています。ライフスキルについてですが、大阪府立とりかい高等支援学校へ見学へ行った際に喫茶の練習清掃活動などに取り組みされており、将来社会に出た際に役に立つと思い、自校でも週1回取り組んでいます。コミュニケーションタイムでは、カードゲームなどを通して、小人数でコミュニケーションやルールを守るようになることを目標としています。主に2時間目と4時間目の時間を中心に個別の抽出する時間になっています。その理由といたしましては、このプログラムに取り組む中で、多くの教員の時間が必要となるため、比較的教員の時間が確保できる時間帯に設定しています。またコグトレやライフスキルについては、主になる担当者を決めて取り組んでいます。例えば、コグトレに興味のある教員が主となって取り組み、ライフスキルについては、教員のバイト経験等を生かしてスキルトレーニングをしています。また、3ページの表を見ると2時間目の教科勉強では、教科を専門的に教えているように見えますが、支援学級担任は元々、専門教科を持っていますので、生徒のレベルに合わせて教えたり、自立活動的な内容も行っています。大体どの時間帯も2人から、多くて10人を超えるぐらいの人数で実施しています。支援学級担任が主で、全て行いますが、1時間に複数の生徒を見ますので、支援教育支援員にもフォローで入ってもらうことがあります。ただ、今年は支援教育支援員の皆さんには、通常学級の授業の入り込みなどをお願いすることが多かったと感じています。

次に5ページの「支援教育の使い分け」についてです。このプログラムを運営するうえで、支援学級教室の使い分けが非常に重要です。本校では、支援学級在籍生徒が増えて教室が少ないという実情はありますが、大きな支援学級の教室が2つあるので、普段過ごす部屋と勉強する部屋のような形で、気分を切替えられるような工夫をしています。複数でも抽出できるような工夫をすることで、個別で抽出する部屋が確保できるようにしています。コグトレや運動タイムでは、9人、10人で取り組む時もあれば、マンツーマンで実施することもあります。

6ページをご覧ください。この2年間で土を触ることが好きな生徒が多いと実感しており、毎日の水やりや、畑づくりをして、苗植えするという持久力の必要なところは、もう少し修行が必要ですが、農園活動の取り組みはみんなが生き生きしてる活動だと思います。また、今年度は、支援学級の教室を「おおぞら教室」と呼び、看板を作成したり、市内の作品展に向けて作品作りにも取り組んでいます。教科授業も、教科の専門性を活かしたものも行っています。体育の先生は、応急処置を実施したり、僕は砂丘の話しをしたりとか、理科の先生はちょっとした、理科の実験などを実施していただいています。

7ページには、生徒に取り組んだ感想を聞き、答えてくれた内容をまとめてみました。普段ほとんど話さない生徒もしっかり返してくれたので、しっかりと考えてくれていたと感じました。そこで出た感想を踏まえて、日々修正しています。そのため、今後も生徒とともに作っていくプログラムになると思います。

次は8ページの「新たな形を作る中で」についてです。実際この形をつくっていく中で、管理職に頑張っていただいた点は、支援学級の担任の主軸には、教科担任の経験や、例えば、適応指導教室を長く務められた教員や、教科担任を長年経験された教員を据えていただいたおかげで、「こういう時はこうしたよ」など話すことができました。また、支援教育の経験年数が少ない教員も多く、いろんな悩みがありましたが、それを踏まえて考えようと相談出来たところもよかったです。さらに、支援教育の部分では通級指導教室担当教員にアドバイスをいただき、一緒に連携しながらプログラムを組立て、授業の中にも一緒に入っていたり、共同で出来たところはおもしろかったと感じています。加えて、新しい人間関係も構築することもできたと思っています。

9ページには、このプログラム全体を通して良かった点をまとめました。支援学級担任の悩みなどが明確になり、見通しがついたことだと思います。また、生徒にとっても見通しがつくことによって落ち着くようにはなったと実感しています。おおぞら教室で教科授業したことで、通常学級のクラスの授業に興味を湧き、実際に通常学級の教室の授業に入れた生徒もいま

す。また、10人程度の集団で過ごす事によって、かん黙傾向で固まっていた生徒も一言二言話すようになったり、笑顔を見せるようになりました。また通常学級の教室に行っても、最初は廊下で見ていた生徒が授業に入れるようになったりもしました。このプログラムを通して、エネルギーを溜めて、通常学級に行き、過ごせるようになる生徒が多かった印象です。

10ページには課題と改善点をまとめています。今年度は支援学級数が9学級ありましたので支援学級担任も9人いて、支援教育支援員や通級指導教室担当教員や支援教育コーディネーターなど僕のような立場のメンバーがいる中で取り組みましたが、やはり複数の生徒に対して1人で対応するのは難しいです。生徒それぞれ抱えているものが違うので、授業中に対応するということでは、1時間に複数名必要だと感じていますので、引き続き充実できるよう改善していきたいと思っています。また、この支援学級のプログラムを使うことで、個別のみではなく複数で抽出する際のところで充実ができますが、通常学級の学級の入り込みが手薄になることが課題としてありますので、優先度をつけながら対応しているところです。ただ、通常学級で過ごしていく中で、社会への自立につながったり、より多くの人間と接していくことで人間関係や社会性を育むという観点は、今まで箕面市が大切にしてきた部分なので両立したいと思っています。また、別の課題点として、このような点を踏まえた上での支援チームの1週間のシフト調整がとても難しく、手間がかかっている部分もあります。

学校によってニーズが全然違うと思いますので、内容は学校によって異なると思いますので、さまざまな角度から取り組むことができると思いました。以上で、発表を終わらせていただきます。ありがとうございました。

(伊丹委員長)

脇委員、ありがとうございます。素晴らしい実践だと思います。多大な御苦勞があったと思います。まずは学識者より専門的なところからご意見やご感想をいただきたいと思います。

(野口委員)

脇委員、ありがとうございます。特に不登校傾向の児童生徒にとっては、どうしても通常学級に行くか、もしくは、全く行かないという2択になりがちですが、この選択肢の間に居場所があると、とても心強いと思います。2点質問なのですが、1点目はこの対象になる生徒たちをどのように選定されているのかを知りたいです。支援学級に在籍している生徒全員が対象ではないと認識をしています。2点目は、このプログラムに参加することで通常学級に参加することができた生徒もいらっしゃるということですが、どういうふうにもそのプロセスを踏んでいったのかについて知りたいです。また、生徒の意見を取り入れていらっしゃる事が本当に素晴らしいなと思いました。継続的に生徒たちとその授業の内容について話す時間が、どれくらいあるのか、生徒自身が選択するラインなどありましたら教えていただきたいです。

(脇委員)

このプログラムに参加する生徒は、比較的1日の中で6分の5時間、あるいは6分の6時間を支援学級の教室で過ごしてる生徒でした。また、通常学級の教室に上がるのが本当に厳しい生徒や、週に3日登校できたらいいというような生徒を中心に話をしました。ただ、農園タイムやコミュニケーションタイムだけ参加する生徒もおり、普段行っている個別の抽出の延長線上として、その点については細かな説明をせずに参加してもらっています。また、通常学級に戻ることができた生徒についてですが、「今、通常学級の教室では同じ社会でも何してるのかな。興味あるな。」というところから始まることもありますし、友達に「一緒に行こう」と言われて教室に入れた生徒も多いと思います。何かこう自分の中で、半分の6分の3時間ぐらいは教室で過ごしたいなっていう思いはあるけどなかなか、実際に動くまで行けなかった生徒がここでちょっと力をつけて、通常学級に行ける時間が1時間だったのが、何か知らない間に2時間行ってみようかなに増えています。

(野口委員)

ありがとうございます。とても参考になりました。

(小田委員)

本当に感心して見ていました。抽出の時間を带状で取るという時間の取り組み方で子どもたちが安心できる部分があるのかなと思って感心しておりました。この带状で取り組む時間を確保するのは、やっぱり効果的だったでしょうか。

(脇委員)

情緒的に見通しのつかない生徒にとってはすごいよかったと思います。1学期はやることが分からずイライラして暴れていた生徒も、その取り組み方に馴染むと真面目になる生徒もいました。やはり、見通しがつくというのは大きいと痛感したところです。

(小田委員)

やはりそういったところが大きな、いろんな形のヒントになるのかなということをおもいます。第一中学校は、いわゆる高校のエンパワーメントのようなことに取り組まれているのだと思います。安心して見通しが持てるということが1番大きなポイントだと思います。高校の通級を見ていると、エンパワーメントを見ていると、こうした形で1年生を過ごし、2年生になると、もともとの高等学校の教育課程が変わるところで大きなまたギャップがあるということも、言われてると思います。そういった意味で、どのように適応していくのかを研究していただけならと思います。非常に参考になりました。ありがとうございました。

(伊丹委員長)

小田委員ありがとうございます。その他、ご意見やご質問はございますでしょうか。

(ゆうやけの会代表者)

お伺いしたいのですが、6限全てを支援学級で過ごしている生徒の給食はどこで食べられていますか。また、資料に「週1回、先生と面談」と記載がありましたが、これは放課後にされているという認識でよろしいでしょうか。

(脇教員)

比較的、1日中、支援学級で過ごしている生徒に関しては、普段過ごす部屋で給食を食べています。中には、給食だけ通常学級に行く生徒もいます。週1回1時間の面談については、放課後ではなく個別の抽出のなかで話をするという意味となります。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。その他、ご意見やご質問はございますでしょうか。

(佐藤委員)

脇委員、ご報告ありがとうございます。すごいなと思いつきながら見させてもらいました。特に、質問ではありませんが、いろんな立場の教員が集まってアイデアを出されたということだったので、生徒にとっていいプログラムが構築できたのだと思いました。加えて、経験年数の少ない教員と生徒たちが一緒に成長できるような内容になっていたと思いました。そういうことを考えると障害種別に応じた教育課程や専門性を深めるための研修がとても大切だと思います。私も通級の担当をしていた際に、様々なタイプの児童生徒がいて、その度にめちゃくちゃ勉強しました。先生たちのお話を聞いたりとか、この児童生徒に合った手法について勉強しないといけないので、ちょっと大変だったなというふうに思いましたが、それぞれ専門性をお持ちの先生たちが集まって、一つのことを考えることはすごい大事だと感じました。参考になりました。ありがとうございました。

(伊丹委員長)

私からも質問がございます。例えば中学校の子どもたちの相談でよく聞くのは、ライフスキルの部分です。これを取り入れていただいていることは本当にすばらしいと思いました。将来につながるような活動を主に取り入れているという認識でよろしいでしょうか。性的エネルギー

一の誤発信のトレーニングや感情コントロール、自己理解などは実際に WHO が言っているようなライフスキルに含まれていますか。

(協委員)

ライフスキルは、大阪府立とりかい高等支援学校を参考にしており、喫茶については令和6年度以降のどこかで、第一中学校の先生がたにお客さんとして来ていただいて経験できればと思っています。卒業した後は就労に向う生徒が多いと思いますので、その上で多い就職先である喫茶や清掃活動、調理などは、よく就労先である部分なので、取り組む必要があると思います。コミュニケーションや物作りなどの取り組みもエッセンスとして踏まえて取り組んでいます。

(伊丹委員長)

ありがとうございました。今後、適応行動や生きていく力をどう育てていくのかがどう育っていくかということもポイントになると思います。また、結果を確認されて、次につなげていく流れもすばらしいと思いますので、この取り組みは続けていただけたら嬉しいです。人員を的確に配置していただきました管理職の皆さまのリーダーシップにも本当に頭が下がる思いです。本当にありがとうございました。

その他、ご意見やご質問はございますでしょうか。

(つばさの会代表者)

この抽出プログラムは、基本的に支援学級に在籍する全ての生徒に当てはめるという背景のもとに、つくられたということでしょうか。

(協委員)

どちらかというと、不登校傾向や通常学級の教室に行きづらい生徒向けを中心に作成しました。

(つばさの会代表者)

では、それ以外のところについてはプログラムとは別で動いているということでしょうか。

(協委員)

そうなります。基本的には個別抽出する中で、例えば、複数人で取り組んだほうがいい生徒で、土いじりが好きであれば農園タイムと一緒に入ったり、運動タイムと一緒に入ったりということはしています。また場合によりますが、教科授業と一緒に入って取り組むこともあります。通常学級で多くの時間を過ごしている生徒に関しては、個別で抽出する際にこのような力が必要と感じた部分に合わせて、入ってもらったりしています。

(つばさの会代表者)

ありがとうございます。極端な話、1週間全ての時間、支援学級で過ごす生徒もいるということでしょうか。

(協委員)

そうですね。通常学級に行けない生徒もいます。

(つばさの会代表者)

そのような生徒に向けたプログラムとして、今回作成し、それ以外は通常学級でのプログラムに参加し、知的のほうで、自立活動が必要な生徒はこのプログラムを混じり合わせながら取り組むという理解でよろしいでしょうか。

(協委員)

はい。そのような形となっています。

(つばさの会代表者)

ありがとうございます。

(伊丹委員長)

ありがとうございました。全体としてご意見やご質問はございますでしょうか。

(小田委員)

学びの場が支援学級から通常学級に移る児童生徒が多いということですが、不適応を起こしている児童生徒は基本的にはいないのでしょうか。

(伊丹委員長)

この点に関しまして、事務局いかがでしょうか。

(事務局：大坪参事)

箕面市としては時間数で一律に分けるという方針を出しておりませんので、基本的には特別な教育課程が必要なのか不要なのか、一定時間、通級指導教室での時間が必要なのかというところを学校と保護者に確認いただき、我々も保護者に説明させていただいています。その際に教育課程を変えるまでは必要ないと判断された場合は、学びの場を変更する可能性があるのではないかと我々としても想定しています。令和5年2月「箕面市支援教育方針」が策定されましたので、実際に学びの場を変更する動きが始まったのは令和5年度からとなります。令和6年度以降、不適応を起こす児童生徒がいなかを我々も注意深く見ていかななくてはならないと思っています。ただ、資料1の説明にもありましたが、学びの場が変更になった際に、支援教育支援員の配置はやはり考えていかななくてはけません。このような点を工夫しながら、不適応を起こす児童生徒さんが少しでもいないような体制は作っていきたいと思います。

(小田委員)

ありがとうございます。学びの場を変更したことで不適応を起こしてしまっている事例もあると伺ったことがありますので、慎重に見ていただけたらと思います。

(伊丹委員長)

では、本日で、今年度の検討委員会は、終了となります。1年間を振り返り、委員の皆さまから感想をいただきたいと思います

(辻野委員)

今年度から参加させていただきまして、箕面市がどのような方向で支援教育を進めていこうとしているのか、また、各校の進め方や改善すべき点についてどのように捉えているのかについて、一緒に考えることができるとてもよかったですと思います。ありがとうございました。

(俵積田委員)

私も今年から委員として参加させていただき、箕面市の方針について、現場の声を聞かせていただき、浸透しているなど感じました。令和6年度の研修の在り方についても、納得する点が増えてきましたので、ここで話した内容を参考に、学校で箕面市の考えを軸に取り組んでいきたいと思っています。ありがとうございます。

(中西委員)

私もこの充実検討委員会に参加し、勉強させていただきました。箕面市では国通知についてもこの充実検討委員会で検討していた点は本当によかったと思います。今後も、箕面市の方針で進めていただきたいと思っています。ありがとうございました。

(佐藤委員)

私も今年から参加させていただきましたが、いろんな立場のかたのご意見をお伺いできてとても勉強になりました。箕面市は、ゆっくり丁寧に少しずつ変化する体制だったので、支援教育担当だけでなく通常学級の先生がたにも浸透しやすかったのだと思います。ありがとうございました。

(脇教員)

1年間ありがとうございました。いろんな立場のかたのお話を伺うことができ、よかったです。また、現場の声も聞いていただき、大変ありがたかったです。今後とも箕面市の支援教育について、皆さんとともに取り組んでいきたいと思ひます。

(柳原委員)

私は、この充実検討委員会を立ち上げるためのワーキンググループの際から参加させていただきました。いつも、どのような経緯で充実検討委員会が立ち上がったかという点を、心の中に忘れないように参加してきました。学校現場の声として、教員だけでなく、児童生徒に近い支援教育支援員の立場の声も聞いていただけたこと、大変感謝しております。今後の箕面市の支援教育がさらに発展していくことを心から願っております。ありがとうございました。

(吉川委員)

中学校の支援教育支援員として、現場の声を発言する機会をいただいたことを感謝しております。現場に合った名称の変更や任期付支援員の増員など、希望を受入れてくださったことにも感謝しております。これからも箕面市の支援教育の現場で、児童生徒のニーズに応じた支援を心がけてサポートしていきたいと思ひます。ありがとうございました。

(ゆうやけの会代表者)

現場の声をたくさん聞けて、すごい勉強になりました。ありがとうございました。

(つばさの会代表者)

1年間ありがとうございました。現場の先生がたも、たくさん考えていただいて、子どもたちのために尽くしていただけてるなと感じました。また、充実検討委員会を通して、支援教育について本当に丁寧に進めていただいているが伝わりました。今後も個々のニーズに応じた支援教育を続けていただきたいです。そのためにも予算を確保し人員を配置できるような体制を構築いただければと思ひます。ありがとうございました。

(新居教員)

通級指導教室担当教員としてこの委員会に参加できたこと、感謝しています。先ほど小田先生の言われた、支援学級から通級や通常の学級に学びの場を変えた児童生徒や、特に小6から中一で、学びの場を変えた児童生徒についてはやっぱり、丁寧に見ていかないといけないかなというふうに思っています。今後も学びの場を変更する児童生徒や小中の引継ぎを大事にしながら対応していきたいと思ひます。また、箕面市が進める「ともに学び ともに育つ」支援教育を進めていくために、集団づくりや人権教育、支援教育の3点が、とても大事だと感じています。ありがとうございました。

(文教員)

いろんな立場のかたのご意見を伺うことができ、とても勉強になりました。今回、不登校や社会の中で不適応を起こしている児童生徒が増加しているというお話もありました。支援の視点をこういったところから参加した者がもっと発信していくことも大事で、今後も学校全体で支援が必要な児童生徒を支える体制づくりをしていこうと改めて思ひました。ありがとうございました。

(野口委員)

2年間、本当にありがとうございました。非常に国としても大きな変化があったり、国連の勧告があったりなどの変化がある中で、これまでの箕面市のいいところを継承しながら、さらによくしていくという観点でこの委員会は進んできたと思います。そこに対して、委員の皆さまが前向きに、いままでの取り組みをさらに良い方向に変えていきたいという今を変えることって結構やっぱり、難しいことってすごくたくさんあると思うんですね。先ほど、丁寧にゆっくりというお話もありましたが、でもそれでもやっぱり、ちょっとこれまでやってきたことを変えていくって、結構、勇気が要ることだと思うんですけども、ただ子どもたちのためによりよいことをとということで皆さんと同じ共通認識を持って進められたことがすごくうれしく思います。また、現場の先生がたのいろんな意見を聞くことができたからこそ、「箕面市支援教育方針」の策定ができたと思います。今回もすごくいい方向で進んでるなというふうに思います。皆さんとこれからも引き続き箕面市の教育がよりよくなるように私も尽力していきたいと思いますので、引き続きご一緒させてください。ありがとうございました。

(小田委員)

様々な施策ごとの内容や現状を聞かせていただき、非常に勉強にもなりました。子どもたちは幸せだと思います。ですが、まだまだ課題もあります。根底にある通常学級の教員がたの力量アップという課題に対して、それぞれの立場からどのように支援できるかを考えていくことが大事だと思います。また、高等学校からも小中学校の情報が欲しいという声もありますので、高校の通級指導教室とも連携していただきながら、高等学校への刺激を与えていただくと思います。今、高等学校の11校と関わっていると、やはりそういった小中学校の情報が欲しいということをよく聞きます。是非、高等学校への刺激を与えていただけたらありがたいなというふうに思っております。

(伊丹委員長)

ありがとうございました。小田委員も今後も引き続き、よろしく願いいたします。

先日、箕面市の第二中学校を訪問させていただき、通常学級での支援を拝見しました。やはり立派な指導です。クラスには多様な生徒がいましたが、きちんとアセスメント実態把握した上での、ユニバーサルデザインや個に応じた指導を本当に細かく行っていると感じました。通常学級においても、支援教育はかなり進んできているんだと実感しました。また、その訪問には教員側でない、事務局の後藤室長補佐も同行いただきました。教員側ではなく、行政側のかたに来ていただける点が、本当に心強いと思います。引き続き、箕面市を支え続けたいなと思っております。今年度は本当にありがとうございました。

では、案件3「その他」について事務局から何かございますでしょうか。

案件3 その他

(事務局：後藤室長補佐)

皆さまありがとうございます。令和5年度の充実検討委員会につきましては、本日で終了となります。皆さまの任期につきましては令和4年度から2年間となっておりますが、箕面市教育委員会といたしましては、任期を更新させていただきまして、令和6年度も引き続き、充実検討委員会を開催させていただければと考えております。

保護者会の役員改選など、参加いただいている委員が替わる場合がございますが、新しく委員になられたかたにつきましては、前委員の任期を引き継いでいただく形となっておりますので、よろしく願いいたします。

令和6年度の開催につきましては、現在詳細の日程につきましては未定ではございますが、今年度と同じように年3回程度、同じ時間帯の夜の6時半ごろから開催できればと考えております。開催日が決まりましたら、ご連絡いたします。

今年度、委員を務めていただきました皆さまにつきましては、本当にご多忙の中、ご参加いただきまして誠にありがとうございました。事務局より御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

3. 閉会

(伊丹委員長)

令和5年度第3回箕面市支援教育充実検討委員会を閉会します。皆さまありがとうございました。